

# 県立自然公園の生物相基礎調査

調査受託者：特定非営利活動法人 西条自然学校

## 目的

多様な生物が生息する自然公園のうち、気候変動の影響が生じやすい地域や、津波想定範囲における動植物の生息状況を調査することで、気候変動影響評価の基礎資料とする。

## 調査内容

・ **調査地域** 奥道後玉川県立自然公園

・ **調査項目と調査方法**

哺乳類：無人カメラ調査（大中型哺乳類）、フィールドサイン調査

鳥類：スポットセンサス（繁殖期、越冬期）

昆虫類：目視調査および捕獲調査（地上徘徊性甲虫ほか）

爬虫両棲類：目視調査

高等植物：目視調査（必要に応じて標本作成）

その他分類群：希少種、外来種

**調査実施期間** 令和5年4月27日-令和6年3月15日

# 調査地点及び調査範囲



奥道後玉川  
県立自然公園

0 5 10 km

# 調査地概観



# 令和5年度 調査結果概要

- 哺乳類**：20種を確認。  
特記事項 ヤマネ（高縄山・檜原山）、コテングコウモリ（高縄山・鈍川渓谷）、テングコウモリ（高縄山・鈍川渓谷）、モモジロコウモリ（高縄山）
- 鳥類**：50種を確認。  
特記事項 高標高域に生息するゴジュウカラ、ヒガラ、クロツグミを高縄山で確認
- 昆虫類**：41種（高縄山で24種、檜原山で26種）を確認。  
特記事項 四国では高縄半島のみ分布するボッチャンオサムシを檜原山で確認。
- 爬虫両棲類**：14種確認
- 高等植物**：高縄山469種、檜原山170種、鈍川渓谷591種、蒼社川上流部398種を確認 現在データ取りまとめ中

## 確認された主な特記種①



**ヤマネ (県準絶滅危惧種)**  
***Glirulus japonicus***

東・中・南予の低地帯から山地帯の森林に生息記録があるが、まばらである。森林が分断されると移動が困難になり、繁殖や分散に影響すると考えられる。県内での生息確認地が限られ、分布も局所的である為、絶滅が危惧される。

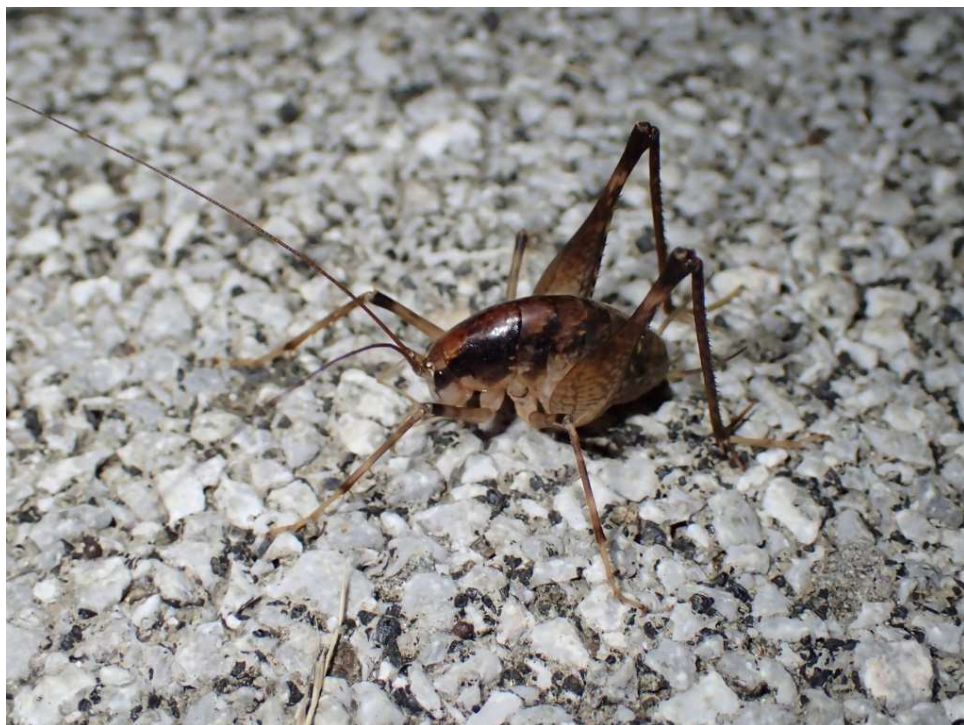
国指定天然記念物



**テングコウモリ (県絶滅危惧Ⅱ類)**  
***Murina hilgendorfi***

洞窟や素掘りのトンネル内で確認されているが、いずれも単独か数頭での確認である。県内の確認地が限られ、生息適地も少ない為、絶滅が危惧される。

## 確認された主な特記種②



モリズミウマ  
*Diestrammena tsushimensis*

四国では高縄半島のみで生息。



ボッチャンオサムシ（県絶滅危惧Ⅱ類）  
*Carabus kawanoi* botchan Imura et  
Mizusawa

高縄半島基半部の限られた山塊の高標高地にのみ分布。四国産オサムシ類の中で一番分布域が狭いため、自然あるいは人為的に引き起こされるわずかな環境変化にも個体群全体が影響を受ける可能性がある

# 今後のデータ活用について

## 県立自然公園の生物相基礎調査

多様な生物が生息する自然公園のうち、特に気候変動の影響が出やすい高標高地や、津波や海面上昇等の影響により消失する可能性がある地域等の動植物の生息状況について集中的に調査を実施し、生物相を明らかにする



**気候変動の影響を受けやすい海岸域等の動物相、植物相の情報を蓄積し、データベースへの反映**